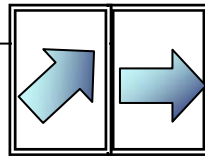


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（9月2日時点）～

国内景況感

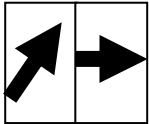
世界的な在庫調整の進展などに伴い、輸出、生産は持ち直している。また、公共投資を中心に経済対策の効果も現れることから、景気は持ち直していくと予想される。



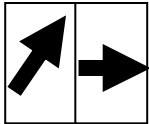
現状 6ヶ月後

(2009年7-9月期) (2010年1-3月期)

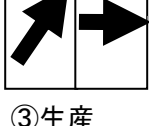
①世界経済



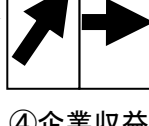
②輸出



③生産



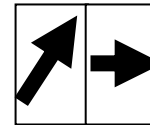
④企業収益



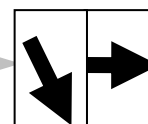
⑤設備投資



⑨公共投資



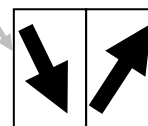
⑦個人消費



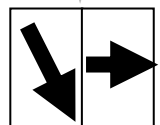
⑥雇用・賃金



⑧住宅投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気は、年後半には景気対策により持ち直すものの、金融問題が尾を引き、力強さに欠けると予想される。2010 年前半には、景気対策の効果に加えて、在庫積み増しなど循環的な動きの強まりによって、緩やかな成長ペースが見込まれる。 ・米国経済は、信用収縮、マインドの停滞等によって、2009 年中は回復感に乏しい状況が続くと見込まれる。ただ、大型景気対策の効果が現れる 2009 年半ばごろにはマイナス成長から脱却し、2010 年前半には小幅拡大が予想される。 ・ユーロ圏経済は、金融問題への対応の遅れによる信用収縮、低い水準のマインド等が景気回復の障害となることから、2009 年を通じて調整局面が続くと予想される。2010 年には海外景気の回復によりプラス成長に転ずると見込まれる。 ・アジア経済は、金融緩和や歳出拡大を伴う内需刺激策、世界景気の影響を受け、2009 年後半に緩やかに拡大ペースを速め、2010 年には加速すると予想される。
②輸出	海外での在庫調整の進展や中国での景気対策効果等を受けて、輸出は持ち直している。先行きについても、米国を中心として世界各国で実施されている経済対策の効果が顕在化すると予想されることから、改善傾向が続くと考えられる。
③生産	生産は世界的な在庫調整の進展や輸出の増加を背景に持ち直している。先行きについては、輸出の増加や在庫調整の進捗に伴い、生産も回復していくと予想される。
④企業収益	売上高の減少などを背景に、企業収益は大幅な悪化が続いている。先行きについては、輸出や生産の持ち直しなどに伴い、企業収益の悪化は緩和していくと予想される。
⑤設備投資	企業収益の大幅な悪化や設備過剰感の高止まりを背景に、設備投資は減少している。先行きについては、収益悪化が緩和することなどを受けて、設備投資の減少に歯止めがかかってくると予想される。
⑥雇用・賃金	景気低迷や収益悪化によって企業の人件費抑制圧力が強まっていることから、雇用・所得環境は悪化している。先行きについては、景気回復の影響が波及することで、雇用・所得環境も悪化に歯止めがかかってくると予想される。
⑦個人消費	厳しい雇用・所得環境に加え、天候不順による外出の手控えなどが影響し、7-9 月期の個人消費は弱含んでいる。エコカー減税やエコポイント制度などの政策効果が乗用車や家電販売の押し上げに繋がっているという好材料はあるが、雇用・所得環境が引き続き悪化することから、先行きも個人消費は停滞が続く可能性が高い。
⑧住宅投資	雇用・所得環境の弱含みや金融機関の融資態度の厳格化による資金調達難などを受けて、住宅投資は停滞している。先行きについては、購入意欲の回復や各種減税制度の効果などにより、住宅投資の悪化は緩和していくと予想される。
⑨公共投資	09 年度予算の前倒し執行が行われていることから、公共投資は大幅に増加している。先行きも、既に発注が行われた補正予算の執行が進むことから高水準で推移する可能性が高い。もっとも、民主党政権が補正予算の執行停止を行う方針を打ち出しており、停止状況次第では、年末以降に公共投資が減少に転じるリスクがある。
⑩物価	石油製品・食料品価格の低下幅が前年比で拡大していることに加え、景気悪化に伴う物価下落圧力が強まっていることから、物価の低下幅は急拡大している。09 年 10-12 月期以降はマイナス幅が緩やかに縮小すると予想されるが、プラス転化の可能性は低いだろう。